

## 大韓地域社会栄養学会第20回学術大会に参加して —第6回日韓シンポジウム報告—

赤松 利恵\*<sup>1</sup>, 吉池 信男\*<sup>2</sup>

\*<sup>1</sup>お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系 \*<sup>2</sup>青森県立保健大学健康科学部栄養学科

キーワード：大韓地域社会栄養学会、学術大会、日韓シンポジウム、報告

2015年11月19日（木）～20日（金）ソウル大学 Hoam Convention Center にて、大韓地域社会栄養学会第20回学術大会（テーマ：Multidisciplinary approaches in nutrition programs to promote public health；国民の健康増進に向けた栄養に関する取組みの多面的アプローチ）が開催された（写真1）。社団法人大韓地域社会栄養学会<sup>1</sup>と本学会は、2010年の本学会学術総会時（埼玉県）に第1回日韓シンポジウムを開催し、翌2011年に学術交流に関する協定を交わした。以降、毎年双方の学術大会にて、日本と韓国を交互に会場としてシンポジウムを開催している。今年韓国での開催の年に当たり、本学術大会の中で、第6回日韓シンポジウムが開催された。

学術大会の1日目（19日）は、学会賞の受賞式および受賞講演などが行われ、主となるプログラムは2日目（20日）から始まった。最初に、これまでの学会の歴史を振り返る20周年記念講演が多く写真が提示しながら行われた。記念講演に引き続き、同会場、「Global nutrition policy and programs（世界における栄養政策）」と題した基調シンポジウムが行われた。ここでは、韓国から2人のスピーカーに加え、武見ゆかり理事長（女子栄養大学）が「National nutrition policy and nutrition management service in Japan（日本の栄養政策とマネジメントサービス）」を講演した（写真2）。このシンポジウムでは、大韓地域社会栄養学会が4年前から協定を交わしている米国 Society for Nutrition Education and Behavior (SNEB) の前会長、Prof. Kendra Kattelman (South Dakota State University) も講演された。なお、SNEB からは、次期会長である Prof. Mary Murimi (Texas Tech University) も参加され、午後のセッションで講演されていた。午前中のプログラムは、会場は全参加者が集まる広い会場で行われ、学術大会の参加者数は約550名とのことであった（写真3）。

午後からは、いくつかのセッションに分かれ、研究発表が行われた。日韓シンポジウムも、この中の1つのセッションとして行われた。大韓地域社会栄養学会 Mee



写真2 基調シンポジウム



写真1 メイン会場の様子



写真3 大韓地域社会栄養学会第20回学術大会記念撮影



写真4 第6回日韓シンポジウム記念撮影

Sook Lee 理事長と本学会武見ゆかり理事長からの開会の挨拶の後、4人の研究者から研究発表があった。今年のテーマは、「Social services and nutrition programs (ソーシャルサービスと栄養プログラム)」であった。まず、韓国から、「Tech-based tailored nutrition interventions using the transtheoretical model: lessons learned from child obesity preventions and management (トランスセオレティカルモデルに基づくITを活用した栄養介入：子どもの肥満予防)」と「Nutrition program for multicultural families in Korea (国際結婚をした家族を対象とした栄養プログラム)」の演題があり、その後日本から著者二人が講演した。吉池が「History and issue of welfare foodservice in Japan (日本の福祉施設におけるフードサービスの歴史と課題)」について、赤松は「School-based food and nutrition education in Japan (日本の学校における食育)」について発表した。発表はすべて英語であったが、質疑応答は各国の言語で行い、日本語、英語、韓国語がわかる座長が通訳を行った。栄養士が勤務していない保育所に対する専門的支援システムの両国の違いなど活発な議論があり、日本の取組みについて関心を持ってもらえたことが伺えた(写真4)。

学術大会終了後、キャンパスツアーとして、大学内の新図書館を見学した(写真5)。今回の会場であったソウル大学<sup>2)</sup>は、1946年に設立された歴史ある国立大学である。大学の敷地は壮大で山腹に校舎群が建てられ、移動にはバスや車が必要であった。新図書館は、キャンパスのほぼ中央に位置し、旧図書館に増設する形で、今年2月にオープンした8階建の建物であった。自由に使える静かな学習スペース(写真6)の他、グループで学習できる部屋や院生用勉強ブース、学習用から娯楽用まで多



写真5 ソウル大学新図書館ツアーでの記念撮影



写真6 新図書館学習スペース

様なDVDを自由に視聴できるコーナーなど、学習環境としてこれ以上ない充実した施設設備の図書館であった。このように、大学施設を見学する機会を得られたことも、今回学術大会参加による収穫であった。

第7回日韓シンポジウムは、今年9月に青森で行われる本学会の第63回学術総会で開催される。韓国から参加者が多く集まり、さらなる交流ができることを期待したい。また、2年後に開催される韓国での学術大会には、多くの本学会員と一緒に参加したい。

## 文 献

- 1) The Korean Society of Community Nutrition, <http://en.koscom.or.kr/> (2015年12月7日)
- 2) Seoul National University, <http://www.useoul.edu/> (2015年12月7日)

(受付：平成27年12月21日，受理：平成27年12月25日)